

近畿地整

大阪湾の高潮対策委

今季の台風対応を報告

【関西】大阪湾港湾の

の検証を行った。

高潮対策を検討する国土交通省近畿地方整備局の「大阪湾港湾等における高潮対策推進委員会」(委員長＝青木伸一・大阪大学大学院工学研究科教授)の第2回会合が4日、神戸市内であった。会合では、昨年9月の台風21号による大阪湾港湾の被害を教訓に近畿地整や各港湾管理者が進めてきた対策を踏まえ、2019年の台風シーズンでの対応などを報告し、そ

れらの台風で実際に情報収集から防災行動、港湾管理者への対応など、段階を踏んで行動した。両台風とも管内での被害はなかった。

また京都舞鶴、堺泉北、尼崎西宮岸屋、和歌山下津、大阪、神戸各港において、港湾BCP(事業継続計画)への地震や風水害対応追加や、段階的な高潮・暴風対応計画の策定とその実施状況も報告された。

今年の台風シーズンを



神戸市内で開かれた第2回会合

振り返り、各港共にこう
おむね注意喚起や対策確
した計画策定により、お
認はスムーズに進んだと

いう。一方、関係者への事前対策実施の注意喚起を行う者の明確化について、改善が必要だと港湾管理者から報告もあった。

高潮対策では、近畿地整による情報を一元化したポータルサイト構築や、各港湾管理者によるハード面での整備計画および同実施状況などについても紹介があり、昨年の台風以降の議論の結果が反映されていることを確認した。

これらを踏まえ、大阪湾での高潮対策を検討する一連の委員会は今回で終了となった。今後は実務者間の連絡・協力体制を維持していく。